

女性の活躍で、一人ひとりが輝くまちへ

豊明市在住の女性の親睦をはかるとともに、まちの活性化を目指す豊明市女性の会。さまざまなイベントを通して、女性の活動にスポットが当たるように取り組んでいます。

発足70年の歴史あるイベントで交流を広げる

女性の教養向上と生活改善を目的に「豊明村連合婦人会」が団体組織となったのは、1948年4月でした。同時に手芸や華道などのサークル活動がスタート。当時は会員数が約2000人と多く、さまざまな講座が

開催されていたといいます。婦人会文化祭を開いて、活動を地域に紹介。文化祭は会員の連帯意識の向上にも大きな役割を果たしました。花嫁衣装の貸し出しというユニークな手法で運営資金を捻出。現在は形を変え、留袖やモーニングの貸し出しをしています。

時代に添った親しみやすい名前にしたという思いを込め、「豊明市女性の会」へと2016年4月に名称を変更しました。

さまざまなイベントに参加陰からまちを盛り上げたい

豊明市女性の会の活動は多岐に渡ります。毎年6月には「桶狭間古戦場まつり」のパレードに参加。過去には、花を持って「花の街とよあけ」をPRしました。「豊明夏まつり」では盆踊りと浴衣の着付けを担当。日本民謡研究会豊明支部の協力を得て、市民有志と盆踊りの練習を重ね、祭りを盛り上げています。

昨年の「豊明秋まつり」では、花のアーチの装飾を担当。今年も豊明福祉会就労支援センターあびつとが運営する、豊明市役所の食堂「スマイル」を秋まつりの11月4日に特別オープンする予定です。「平日は足を運びづらい人にも、こんな場所があるんだと知るきっかけになれば、ここはおすすめスポットです」と原さん

行事の企画は大変。参加者の方から良い感想をいただくとうれしいです



会計 大澤真知子さん

色々な団体と交流できて輪が広がる、それが会の魅力です



副会長 森久子さん

イベントに参加してくださる皆さんの繋がりが、いざという時に生かされたいと思います



会長 原由美子さん



豊明市防災訓練では、毎年炊き出しを担当しています

は話します。

また、2016年の役員研修では、東日本大震災の際に豊明市役所の職員が出向した宮城県岩沼市に訪問。地元の人から震災当時の状況や体験などを聞き、地域の繋がりの重要性を改めて学びました。副会長の森久子さんは「直接被害に遭われた方の話から、自分の命は自分で守ること、日頃のご近所付き合いが大切だと感じました」と話します。

女性が活躍できる場を提案していきたい

3年前から開催している「輝く女性のマルシェ&ステージイベント」は、大きな盛り上がりを見せています。前半のマルシェでは、手作りアクセサリーや飲食物を販売するほか、ネイルサロンなど、市内の女性が特技を発揮。後半はステージイベントが開催されます。今年はエイジングケアをテーマに、女性のための講演会を実施。さらにオペラを楽しみました。来場者からの

「これからも期待しています」という声は、役員のモチベーションになるといいます。

十五夜には「月見夜楽の会」を勅使水辺公園で開催。エコ活動の一環として、ランタ



(上)今年5月に行われた「中京競馬場バックヤードマラソン」。市内の女性マラソングループの協力を得て、受付や給水を手伝いました(下)月明かりの下で音楽などを楽しむ「月見夜楽の会」。文化の風を吹き込む会となっています

ンに照らされたあずまやでは、生音楽などを楽しめます。虫の声や鳥の声、樹々のざわめきといった自然の音と調和するのも魅力です。10年続いているイベントで、毎年およそ100人が来場。毎年参加するリピーターもいます。

「活動する中で色々な人と知り合い、視野が広がりました」と自身の変化を話す原さん。「あがり症でしたが、人前でも話せるようになりました」と話す森さんの横で、大澤さんも「周囲の人から明るくなったといわれます」とほほ笑むなど、会の活動を通じてそれぞれ成長を実感しているようです。

「市が掲げる『大金星のまちとよあけ』のキャッチフレーズ通り、一人ひとりが輝けば、おのずと市全体が輝くと考えます。これからは女性が活躍できる場を増やすため、積極的に活動していきます」と、原さんは熱を込めます。わがまちを盛り上げる、豊明市女性の会。一人ひとりのパワーがまちに「元気を届けています」。

豊明市女性の会

問い合わせ TEL 090-9899-1766(原由美子会長)

一人ひとりが

輝けば、おのずと市全体が輝くと考えます



event
月見夜楽の会
9月25日[火]
■開場18時
■開始18時30分(予定)

盆踊りの練習に集まった、豊明市女性の会と日本民謡研究会豊明支部と、市民のみなさん。この日は約50名が集まりました